

遠軽町立遠軽中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 遠軽町立遠軽中学校（生徒数 196 名）
小学校名 遠軽町立遠軽小学校（児童数 126 名）
遠軽町立東小学校（児童数 254 名）

1 推進地域の状況

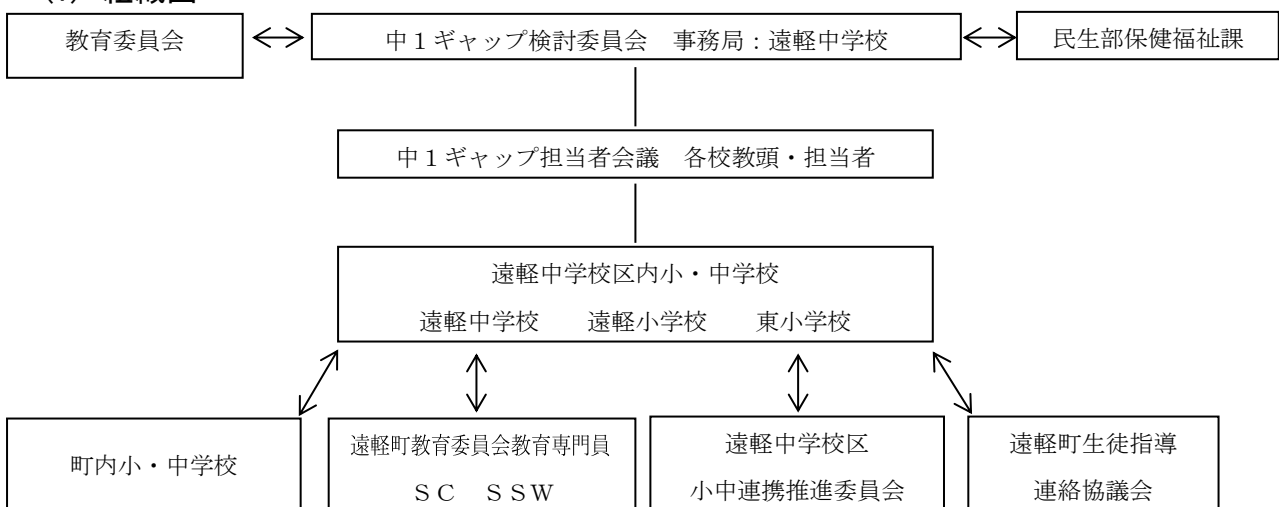
推進地域は中学校 1 校、小学校 2 校からなり、2 校の小学校の児童は卒業後、全員が同じ中学校に入学する地域となっている。推進地域の 3 校においては、学校や学級の様子が大きく異なることから、中学校入学後に友人関係を築くことや、中学校生活に適応することに困り感を抱え、欠席や遅刻する生徒が数名見られる等、中1ギャップが大きな課題となっている。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- 子ども理解支援ツール「ほっと」及び「ほっとプラス」、小学校第6学年児童及び中学校第1学年生徒を対象とした「中学校進学アンケート」を実施し、結果の分析シートを活用することにより児童生徒の理解に努め、推進地域の児童生徒にとって必要な関係機関との効果的な連携を目指す。
- 各校の情報交流や小・中学校での指導方法に係る研修を行い、小・中学校間をつなぐ取組や「学習規律」「生活規律」の系統的な指導の確立を目指す。
- 児童生徒のコミュニケーション能力の育成や他者と関わる活動を通して、学級・学年集団に適応する力を育成するとともに、自他のよさを理解し、自分自身の可能性を伸ばすことができる児童生徒を育成するなど、悩みを抱える児童生徒の不安解消や課題の改善を目指す。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- 遠軽中学校区内小・中学校及び教育委員会、民生部保健福祉課からなる「中1ギャップ検討委員会」を設置し、中1ギャップ問題について様々な視点から検証考察を図った。

- 遠軽中学校区内小・中学校の教頭、中1ギャップ担当者からなる「中1ギャップ担当者会議」を設置し、中1ギャップ問題解消に向けた具体的方策や学校間連携について検討し、内容の一層の充実を図った。
- 中1ギャップ問題担当の加配教員もしくは中学校教員による推進地域内における小学校への「乗り入れ授業」や小学校第6学年を対象とした「一日体験入学」等を計画・実施し、円滑な中学校接続に向け事業推進を図った。

(3) 加配教員の役割

- 中学校教員による継続的な「乗り入れ授業」や小学校第6学年児童対象の「一日体験入学」等の計画及び実施
- 子ども理解支援ツール「ほっと」や「生活アンケート」、「全国学力・学習状況調査」及び「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果を分析し、推進地域の児童生徒の特徴や地域特性等を把握と共有
- 不登校児童生徒の支援策の作成、実施
 - ・継続して欠席している児童生徒への支援策の作成と実施
 - ・不登校児童生徒に対する学習支援策の作成と実施
 - ・不登校児童生徒に対するICT機器を効果的に活用した学習支援策及び教育相談体制の構築と実施
- 不登校未然防止策の作成、実施
 - ・不登校及びいじめの未然防止に関わる課題の整理
 - ・不登校の傾向が見られ始めた児童生徒への早期の対応の充実

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	遠軽町立遠軽中学校	遠軽町立遠軽小学校・遠軽町立東小学校
3月	【新入学生徒に係る引継ぎ】 （遠軽中学校区小学校2校と実施） <ul style="list-style-type: none"> ○学習面、生活面、交友関係等の状況及び配慮事項についての確認 ○特別な配慮を必要とする生徒についての確認 ○特別支援学級生徒に係る引継ぎは特別支援学級担当者で実施 	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○全校生徒に係る配慮事項等の情報交流 ○新入生歓迎会 ○中学校の生活規律に関する指導 ○自殺予防教育プログラムA - ① ○第1回子ども理解支援ツール「ほっと」 	<ul style="list-style-type: none"> ○全校児童に係る配慮事項等の情報交流 ○第1回子ども理解支援ツール「ほっと」
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめアンケート ○教育相談（全校生徒） ○第1回運営協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめアンケート
	【第1回遠軽中学校区中1ギャップ検討委員会及び第1回中1ギャップ担当者会議】 <ul style="list-style-type: none"> ○中1ギャップ検討委員会としての組織、方針、計画の確認 ○小学校第6学年及び中学校第1学年への進学アンケート実施に向けた内容及び方法の最終検討 ○児童生徒の生活、学習等の実態交流と各校の実践交流及び協議 	

時 期	遠軽中学校	遠軽小学校・東小学校
6月	【遠軽中学校区小中連携協議会】 ○各教科や職種（事務や養護教諭）に分かれ連携内容を討議 ○小中授業参観交流	
7月	○生活アンケート ○進学アンケート ○教職員アンケート ○前期学校評価 ○自殺予防教育プログラムA - ② ○第1回「心と身体のチェック」 ○小中授業参観交流	○生活アンケート ○進学アンケート ○教職員アンケート ○前期学校評価 ○小中授業参観交流
8月	○夏季休業期間中の学習サポート ○自殺予防教育プログラムA - ③ ○第2回「心と身体のチェック」 ○小中授業参観交流	○小中授業参観交流
9月	○自殺予防教育プログラムB - ① ○自殺予防教育プログラムB - ②	
10月	○いじめアンケート ○自殺予防教育プログラムC - ①	○いじめアンケート
11月	○第2回子ども理解支援ツール「ほっと」 ○自殺予防教育プログラムC - ②	
12月	○「ほっとプラス」（1回目） ○自殺予防教育プログラムC - ③	○第2回子ども理解支援ツール「ほっと」
1月	○第3回「心と身体のチェック」 ○「ほっとプラス」（2回目） ○冬季休業期間中の学習サポート実施 【小学校第6学年一日体験入学】 ○体験授業並びに施設説明 ○小学校第6学年「中学校進学アンケート」の質問に対する回答 ○生徒会書記局運営による部活動紹介	
2月	【第2回遠軽中学校区中1ギャップ検討委員会及び第2回中1ギャップ担当者会議】 ○今年度の反省並びに次年度の計画 ○小・中学校の引継ぎ事項の確認 ○児童生徒の生活、学習等の実態交流と各校の実践交流及び協議 ○第3回子ども理解支援ツール「ほっと」 ○自殺予防教育プログラムC - ④	
3月	【入学生徒に係る引継ぎ】（校区小学校2校と実施） ○学習面、生活面、交友関係等の状況及び配慮事項についての確認 ○特別な配慮を必要とする生徒についての確認 ○特別支援学級生徒に係る引継ぎは特別支援学級担当者で実施	

5 事業の成果

○ 関係機関（特別支援学校・児童相談所・病院）との効果的な連携

子ども理解支援ツール「ほっと」及び「ほっとプラス」、小学校第6学年児童及び中学

校第1学年生徒を対象とした「中学校進学アンケート」を実施し、結果の分析シートを活用することにより、児童生徒の理解に努め、推進地域の児童生徒にとって必要な関係機関（特別支援学校・児童相談所・病院）との効果的な連携を図ることができた。

○ 各校の情報交流や授業参観交流

推進地域3校で情報交流する場を複数設定したことにより、小・中学校間をつなぐ「学習規律」「生活規律」の系統的な指導の共有を図ることができた。

○ 加配教員を配置したことによる成果

加配教員と学級担任の連携が強化され、児童生徒にとって必要な関係機関（特別支援学校・児童相談所・病院）と連携を図ることができた。また、不登校生徒に対しては、児童生徒や保護者の意向を踏まえ、ICTを活用した学習支援を実施することができた。新型コロナウイルス感染症拡大により、計画していた小学校第6学年への「乗り入れ授業」の実施時期が遅くなったが、事前アンケートの結果から児童が中学校に期待する声を把握することができた。

○ 効果的な教育課程の改善

小学校高学年から中学校第1学年へ緩やかに繋ぐための教育課程の改善について、各校の現状と課題を担当者会議にて確認し、発達の段階に応じた区切りを大切にしつつ、本地区で推進できることを検討中である。

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

毎回のアンケート結果から、否定的な回答が多い生徒や時間とともに大きく変化した生徒に対して、教育相談を実施したことにより、生徒がもつ悩みを共有することができ、望ましい生活態度の育成に向けた指導の改善につなげることができた。

○ 教育課程に位置付けた人間関係を築く力の育成

自殺予防教育を加配教員、学級担任、保健体育科教員、スクールカウンセラーだけでなく、第三者的な立場である保健師による講話及び演習を実施することにより、生徒や教師が自殺予防に関する理解を深めることができた。

6 今後の課題と対応

○ 学習指導や生徒指導の充実を図る取組

小学校第6学年に対し、中学校の生活に見通しをもたせるため、「一日体験入学」以外の中学校への訪問機会の複数回設定、中学校教諭による乗り入れ授業の実施や小学校児童会と中学校生徒会の相互交流等について、計画を立てたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で小中連携の取組が計画どおりに進まなかったことから、中1ギャップ問題解消に向けた効果的な取組について、感染症対策を徹底し、意図的・計画的に実施する必要がある。

○ 不登校児童生徒に対する対応

不登校生徒の考えを尊重し、よりよい学習環境・生活環境を整備することに努め、学びの機会や教育相談による学校と児童生徒とが繋がる機会を増やすことができたが、生徒によっては、様々な事情から中学校だけでなく外部との関係機関ともつながりを構築することが難しい事例があることから、関係機関との連携体制をさらに密にする必要がある。

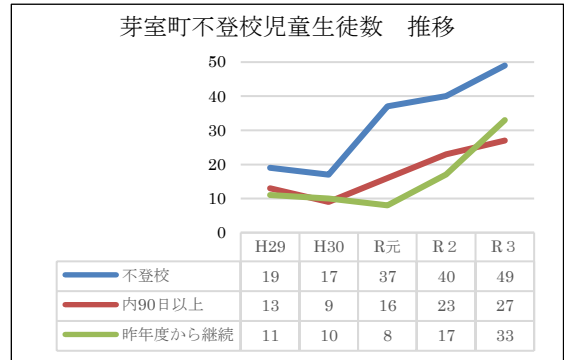
芽室町立芽室中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 芽室町立芽室中学校 (生徒数426名)
 小学校名 芽室町立芽室小学校 (児童数599名)
 芽室町立芽室南小学校 (児童数 77名)

1 推進地域の状況

芽室町では、不登校児童生徒数が増加傾向にあり、不登校に係る態様が多様化、複雑化していることに課題がある。

そのため、芽室町では令和3年度に芽室町不登校支援システム構築協議会を設置し、学校が組織的・計画的に対応するための仕組みや手立てを明確にし、令和4年度より推進している。



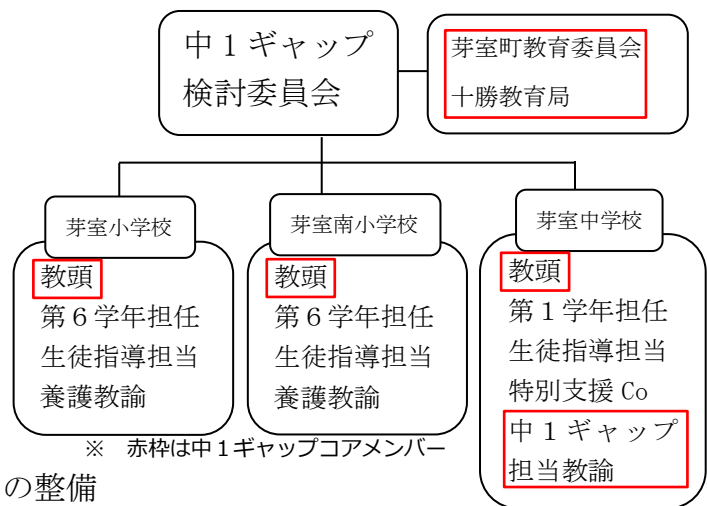
2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- ・小・中学校における9年間を通じた教育課程の編成等、中1ギャップの未然防止につながる小・中学校の円滑な接続を目指す。
- ・不登校児童生徒に対する初期・中長期的対応の指針、使用する計画書様式の統一など、芽室町不登校支援システムの改善及び定着を図る。
- ・中1ギャップ問題未然防止に係る取組、各種アセスメントツールを有効活用した教育相談や指導の充実を図る。
- ・小・中の連携・交流を推進するために、中核となる教員を配置し、推進地域における組織的かつ系統性のある取組を推進する。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図

中学校5名、小学校各4名の教頭・教諭等で構成した中1ギャップ検討委員会を設置し、町教育委員会・十勝教育局を加えた構成とした。



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

ア 推進地域全体での事業推進体制の整備

- ① 年3回、「中1ギャップ検討委員会」での協議を実施
- ② 子ども理解支援ツール「ほっと」やhyper-QU等のアセスメントツールの結果に基づく組織的な生徒指導體制の確立
- ③ 芽室中学校区における中1ギャップ解消プランの改善・充実
- ④ 各学校の中核教員を中1ギャップ検討委員会構成員に任命
- ⑤ 不登校児童生徒及び不登校の傾向が見られる児童生徒に対する対応策の計画及び組織的な取組

イ よりよい人間関係を築く力の育成を図る学級経営等の改善・充実

「ほっと」や生活アンケート、hyper-QU等の実施と分析及び活用

ウ 不登校児童生徒への対応の充実

① 不登校傾向が見られ始めた児童生徒への組織的・計画的な早期の対応

② 不登校児童生徒に対するICT等を活用した支援

エ その他の取組

新たな不登校を生まないための指導の充実等を含む魅力ある学校づくりに係る必要なアセスメントツールの試行及び検討

オ 自殺予防教育の推進



援助希求的態度や早期の問題認識、ストレス対処能力を育成するため、芽室中学校における「自殺予防教育プログラム」の実施

(3) 加配教員の役割

- ・「円滑化訪問」の実施や、乗り入れ授業・合唱交流・部活動体験等の実施に係る調整
- ・「ほっと」をはじめとするアセスメントツールの実施、結果の分析・共有
- ・不登校等、生徒指導上の諸課題に関する調査の分析、共有
- ・各種取組について、通信「かけはし」の作成及び全町立小中学校への周知

4 中1ギャップ解消プランの実際

時期	芽室町立芽室中学校	芽室町立芽室小学校・芽室町立芽室南小学校
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中1ギャップコアメンバー会議 中学校区の3校において、今年度の中1ギャップ未然防止事業についての概要や推進内容について共通理解を図った。 ○ 中1ギャップ未然防止事業通信「かけはし」発行 年間を通して加配教諭が作成し、中1ギャップ未然防止事業に係る取組や、小・中学校で共有すべき情報等を発信し、町内全校の共通理解を促した。 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 円滑化訪問の打合せ（加配教諭、第6学年学級担任） 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 円滑化訪問開始 加配教諭が第6学年学級を中心にTTで授業に関わり、児童の実態把握を行った。また、小・中学校間の情報交流を行い、小・中学校のつなぎ役として人間関係づくりを進めた。 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中1ギャップコアメンバー会議 各校の教職員が主体となった取組を推進するための体制整備等について協議した。 ○ 第1回中1ギャップ検討委員会 各学校の中心スタッフが集まり、今後の教職員が主体となった取組について協議した。 ○ 中学校区の3校でhyper-QUの実施 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 芽室中学校において「ほっと」を実施 ○ 芽室中学校において「心と身体のチェック」を実施 各種アセスメントツールにより、多角的な児童生徒理解を基にした道徳教育及び特別活動等の指導方法の工夫に努めた。 	

時 期	芽室中学校	芽室小学校・芽室南小学校
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中1ギャップコアメンバー会議 各種取組の推進について協議するとともに、「ほっと」の結果を交流した。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ほっと」に係る研修会 十勝教育局の指導主事を講師として招聘し、「ほっと」の目的や分析の仕方、活用方法等について理解を深めた。 (参加者：芽室小学校2名、芽室南小学校2名、芽室中学校1名、芽室町教育委員会1名) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合唱交流 芽室中学校の教務部と各小学校第6学年学級担任が中心となり、芽室中学校第3学年と芽室小学校第6学年、芽室中学校第2学年と芽室南小学校第5・6学年間で実施した。 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中2アンケートの実施 入学時と現在の気持ちの変化についてアンケートを行い、アンケート結果を通信により全町で情報共有した。 	 <p style="text-align: center;">【合唱交流の様子】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中1ギャップコアメンバー会議 各種取組の進捗状況を確認するとともに、第2回中1ギャップ検討委員会について協議した。 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援学級担任による授業参観及び実態交流 各学校の特別支援学級担任が中心となり、児童生徒の姿や特性を把握する機会とした。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校教諭による出前授業（数学科、英語科教師） 各教科担当教員と各小学校第6学年学級担任が中心となり、中学校教員が各小学校に出向き、専門性を生かした授業を行った。 	
	 <p style="text-align: center;">【出前授業の様子（外国語科）】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小6アンケートの実施 現在の中学校に対する希望や不安についてアンケートを行い、アンケート結果を通信により全町で情報共有した。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2回中1ギャップ検討委員会 加配教員による今年度の取組の成果と課題について説明するとともに、本事業に対する各学校の現在の取組状況、教職員の意識等について交流した。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3回中1ギャップ検討委員会 今年度の成果や次年度の方向性について協議した。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合唱交流 芽室中学校第1学年と芽室小学校及び芽室南小学校第6学年間で実施した。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合同学習 中学校保健体育科担当教員と各小学校第6学年学級担任が中心となり、芽室小学校と芽室南小学校の第6学年合同で行った。 	

時 期	芽室中学校	芽室小学校・芽室南小学校
	○ 部活動体験週間 1週間程度の期間、興味のある部活動の見学を行い、児童自身が授業以外の中学校の雰囲気を感じ取ることができるようにした。	
	○ 中1ギャップコアメンバー会議 次年度の方向性の具体について協議した。	

5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

- ・加配教員による円滑化訪問を通して、小・中学校の教諭のつながりを深めるとともに、進学に向けた児童の不安軽減に努めることができた。
- ・円滑化訪問や通信の発行を通して、小中連携や中1ギャップ未然防止に係る情報を周知したことにより、小・中学校の教育課程や生徒指導の系統性等に係る共通理解を図ることができた。

○ 効果的な教育課程の改善

- ・アセスメントツールを活用し、把握した児童生徒の実態を踏まえた道徳教育及び特別活動の充実を図ったことにより、「ほっと」における「関係維持」の得点が2.7ポイント、「仲間強化」の得点が3.2ポイント、「自己統制」の得点が2.6ポイント増加するなど、学級への所属意識を醸成することができた。

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

- ・長期休業後の結果において、不安や悩みから生活リズムが乱れていた生徒に対して、個別の教育相談を行うなど、学級担任や加配教諭が生徒一人一人の問題に寄り添って対応したことにより、12月の調査では、ほとんどのケースにおいて生活リズムの改善が見られた。

6 今後の課題と対応

○ 小中一貫教育への取組

今後、小中一貫教育を全町的な取組として推進していくことから、小中一貫教育と本事業を関連付け、9年間を見通した系統性のある教育課程を改善するとともに、芽室町の教育方針等と一層関連を図る必要がある。

○ 事業の学校組織への位置付け

加配教諭が担当として推進してきた小・中の橋渡しの役割を、加配教諭がいなくても事業推進されるよう、学校組織・校務分掌に各事業を位置付ける必要がある。

○ 不登校児童生徒への早期からの組織的・計画的対応の定着

不登校の対応を組織的・計画的に行い、当該児童生徒・保護者と合意形成を図りながら対応していくための仕組みの定着を図る必要がある。

厚岸町立太田中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 厚岸町立太田中学校（生徒数11名）
小学校名 厚岸町立太田小学校（児童数26名）

1 推進地域の状況

本中学校区は、真面目な児童生徒が多く、生活態度も落ち着いている。しかし、幼児期から同じ小集団で生活する場面が多いなど、様々な人と関わる機会が少なく、学校生活においても、自らの考えで学習を進めたり、生活習慣を改善したりするなど、自主的・主体的に取り組む場面で課題が見られる。

不登校児童生徒への支援については、児童生徒、保護者との話し合いを踏まえ、関係機関との連携、学校体制の整備等を進めてきた。児童生徒や保護者が納得し、改善に向けて前向きに取り組むことができるよう、個別の状況に応じて、効果的な支援を検討しながら進めてきた。学校生活、人間関係、進路選択等への不安とともに、家庭環境等に悩みをもつ児童生徒にとって、よりよい人間関係づくり、自己肯定感・自己有用感の高揚、自己決定力等の育成が必要である。

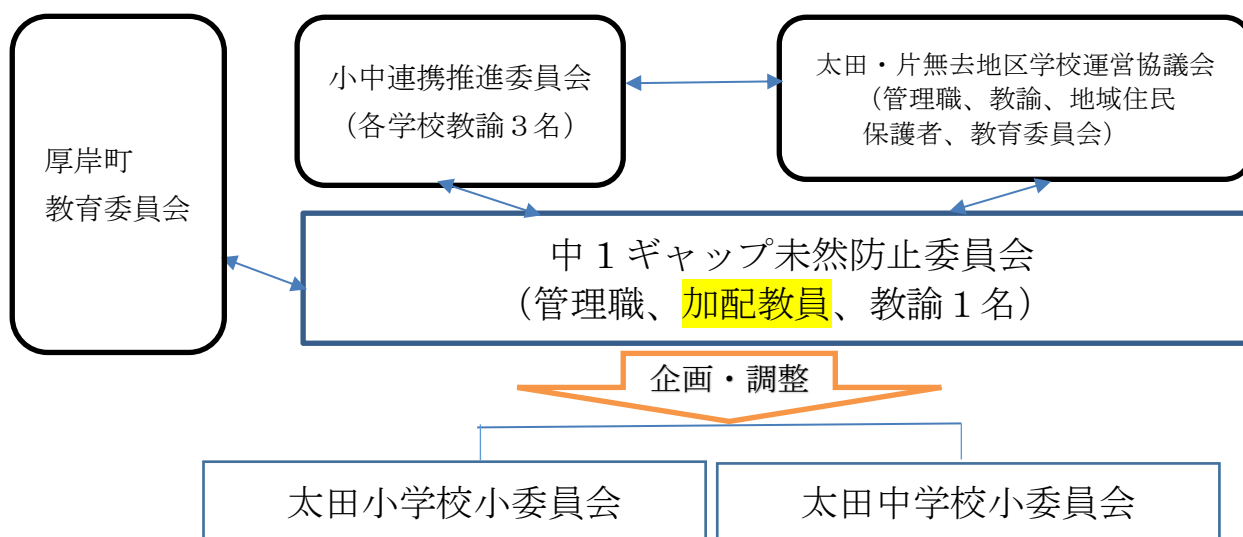
いじめ問題への対応については、直近3年間、中学校区で認知したいじめはすべて解消されている。また、教育相談の機能を生かしたいじめの未然防止、早期発見・早期対応に努めるほか、互いに認め尊重し合う集団づくりを目指す取組として、児童会・生徒会が主体となり、絆づくりを目的とした集会活動を企画し実施している。これらの取組については、一定の効果が見られており、学級指導等の中でいじめは許されないという意識を高める指導を継続している。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- 小・中学校間の相互理解の促進や確実な情報共有を図り、円滑な接続を目指す。
- 中1ギャップ未然防止委員会を定期的実施し、小中連携の下、不登校やいじめの未然防止に係る組織的な取組を進め、生徒指導上の諸問題を共有し、解決を図る。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・中1ギャップ未然防止委員会の設置
- ・子ども理解支援ツール「ほっと」等の調査結果に基づく検証改善サイクル確立の取組
- ・「中1ギャップ解消プラン」の作成・実施
- ・中1ギャップ未然防止委員会に中心的に関わる教員の位置付け
- ・不登校及び不登校傾向が見られる児童生徒に対する組織的な取組

(3) 加配教員の役割

- ・小・中学校9年間で育成を目指す資質・能力を明確にした「9年間の学びの地図」の編成
- ・子ども理解支援ツール「ほっと」や独自アンケートの実施・分析
- ・調査結果の分析を踏まえた指導方針の立案及び中1ギャップ未然防止委員会への協議資料の提示
- ・「不登校早期発見・支援プランシート」の作成
- ・不登校の傾向が見られ始めた児童生徒に対する早期対応を組織的に行う支援策の作成
- ・「高学年・中学校1日登校」等の計画、小・中学校間の連絡調整

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	厚岸町立太田中学校	厚岸町立太田小学校
4月	<p>【小中連携委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区における取組の方向性の確認 <p>【小中合同運動会検討会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同運動会の内容の確認 <p>○ 学校いじめ防止基本方針の確認</p> <p>○ 生徒実態交流（毎月）</p>	<p>○ 学校いじめ防止基本方針の確認</p> <p>○ 児童実態交流（毎月）</p> <p>○ 「とんでんタイム（全校交流集会）」（通年）</p>
5月	<p>【第1回中1ギャップ未然防止委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区における目標・具体的取組の決定 <p>【第1回「高学年・中学校1日登校」（第1回中学校教員による乗り入れ授業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育 <p>【小中全校奉仕活動（第1回クリーン作戦）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、保護者、教職員で学校周辺地域の清掃活動 <p>【第1回太田地区学校運営協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針の理解 ・今年度の取組の周知及び協力依頼 <p>○ 第1回生活リズムチェック</p>	<p>○ 第1回生活リズムチェック</p>
6月	<p>【小中合同運動会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同による運営、実施 <p>【小中合同授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いた道徳の授業 講師：大澤 ちほ 様（元アイスホッケー日本代表選手） テーマ：「夢を叶えるために」 <p>○ 第1回子ども理解支援ツール「ほっと」</p> <p>○ 中学校生活についてのアンケート</p> <p>○ 第1回いじめアンケート</p>	<p>○ 中学校生活に向けてのアンケート（高学年）</p> <p>○ 第1回いじめアンケート</p>

時 期	太田中学校	太田小学校
7月	<p>【第2回「高学年・中学校1日登校」第2回中学校教員による乗り入れ授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科 <p>【第2回中1ギャップ未然防止委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校生活についてのアンケート、中学校生活に向けてのアンケート結果の分析 ・児童生徒の実態交流 <p>【第1回小中合同研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中1ギャップについての講話（講師～町教委指導室長） ・「9年間の学びの地図」（小・中学校9年間を通して各教科等で育成を目指す児童生徒の姿）の作成・検討 	
	<input type="radio"/> 第1回学校評価アンケート <input type="radio"/> 自殺予防教育プログラムの開始	<input type="radio"/> 第1回学校評価アンケート
8月	<input type="radio"/> 第2回生活リズムチェック	<input type="radio"/> 第2回生活リズムチェック
9月	<p>【第3回「高学年・中学校1日登校」（第3回中学校教員による乗り入れ授業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数 	
		<input type="radio"/> 第1回子ども理解支援ツール「ほっと」
10月	<p>【第4回「高学年・中学校1日登校」（第4回中学校教員による乗り入れ授業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会 <p>【令和4年度中1ギャップ問題未然防止事業新規指定地域訪問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本庁指導主事による訪問・視察 <p>【第3回中1ギャップ未然防止委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校第1回、中学校第1回子ども理解支援ツール「ほっと」分析結果の交流 ・児童生徒の実態交流 	
	<input type="radio"/> 第3回生活リズムチェック <input type="radio"/> 第2回いじめアンケート	<input type="radio"/> 第3回生活リズムチェック <input type="radio"/> 第2回いじめアンケート
11月	<p>【第5回「高学年・中学校1日登校」（第5回中学校教員による乗り入れ授業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語 	
	<input type="radio"/> 第2回子ども理解支援ツール「ほっと」 <input type="radio"/> 全校レクリエーション	
12月	<p>【第2回学校運営協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期学校評価について ・地域で学ぶ教育活動の今後の展望についての熟議 <p>【第6回「高学年・中学校1日登校】】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間 <p>【第4回中1ギャップ未然防止委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動の成果と課題 ・中学校第2回子ども理解支援ツール「ほっと」分析結果の交流 <p>【厚岸町子ども未来ミーティング（町内各小・中学校児童生徒代表各2名参加）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止に向けた各学校の取組の交流 	
	<input type="radio"/> 第2回学校評価アンケート <input type="radio"/> 全校レクリエーション	<input type="radio"/> 第2回学校評価アンケート <input type="radio"/> 第2回子ども理解支援ツール「ほっと」
1月	<input type="radio"/> 第4回生活リズムチェック	<input type="radio"/> 第4回生活リズムチェック
2月	<p>【第7回「高学年・中学校1日登校」（第6回中学校教員による乗り入れ授業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語 ・中学校保護者学校説明会 <p>【第5回中1ギャップ未然防止委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校第2回子ども理解支援ツール「ほっと」分析結果の交流 ・次年度の目標の設定及び活動についての協議 <p>【第2回小中合同研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「9年間の学びの地図」の改善 ・小中連携の在り方についての協議 	
	<input type="radio"/> 全校レクリエーション	
3月	<input type="radio"/> 中学校入学に向けた引継ぎ	<input type="radio"/> 中学校入学に向けた引継ぎ
	<p>【第8回「高学年・中学校1日登校】】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動 	

5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

加配教員を中心に小学校と連携を図り、高学年児童の中学校1日登校を昨年度より増やして年8回実施したことにより、高学年児童が中学校の生活や授業の具体的なイメージをもつことができるようになり、中学校生活への不安解消が図られた。また、加配教員が、中1ギャップ問題未然防止事業通信「とんでん魂！」を発行し、本事業の取組、子ども理解支援ツール「ほっと」や生活アンケートの分析結果、研修のまとめ、乗り入れ授業後の児童の感想等の周知・共有を図ったことにより、小・中学校の教職員の小中連携に対する意識向上を図ることができた。

○ 効果的な教育課程の改善

小中合同研修で、小・中学校9年間において各教科等で児童生徒に育成を目指す資質・能力を明確にした「9年間の学びの地図」を作成したことにより、児童生徒のよりよい人間関係を築く力の育成を図ることができた。また、「9年間の学びの地図」は、年間を通じて検証・改善を図り、年間指導計画の改善に反映させることにより、教育課程の改善につなげた。

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

「心と身体のチェック」の結果が下降傾向の生徒に対して、重点的に教育相談を実施した。ほかにも、本事業の取組を通して、積極的に行動しようとする生徒が増え、第1回「ほっと」の結果で課題が見られた「忠告」「自律」「率先」の数値が、第2回「ほっと」で改善した。また、小・中学校で実施した「ほっと」の結果を、中1ギャップ未然防止委員会で分析し、その結果を小・中学校の校内研修等で把握・共有することにより、課題改善につなげることができた。

【中学校「ほっと」の結果】

	緊張	忠告	配慮	自律	率先	学業
第1回	3.0	2.9	3.7	3.0	3.0	3.6
第2回	2.8	3.2	3.7	3.2	3.2	3.3

○ 児童生徒の実態交流

中1ギャップ未然防止委員会で、生徒指導上配慮を要する児童生徒及び高学年中学校1日登校や交流行事において気になった児童生徒について定期的に情報交換を行ったことにより、児童生徒の実態について小・中学校間で共有することができた。

6 今後の課題と対応

○ 系統的な教育課程の改善

小・中学校の教育課程をさらに系統性を踏まえたものに改善を図るため、小・中学校における各活動のつながりを明確にする必要がある。

○ 「中1ギャップ未然防止事業」の評価と数値目標の設定

事業を効果的に推進するため、中1ギャップ未然防止委員会において、具体的な数値目標及び検証方法の改善について検討する必要がある。

根室市立柏陵中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 根室市立柏陵中学校（生徒数 148 名）
小学校名 根室市立北斗小学校（児童数 298 名）

1 推進地域の状況

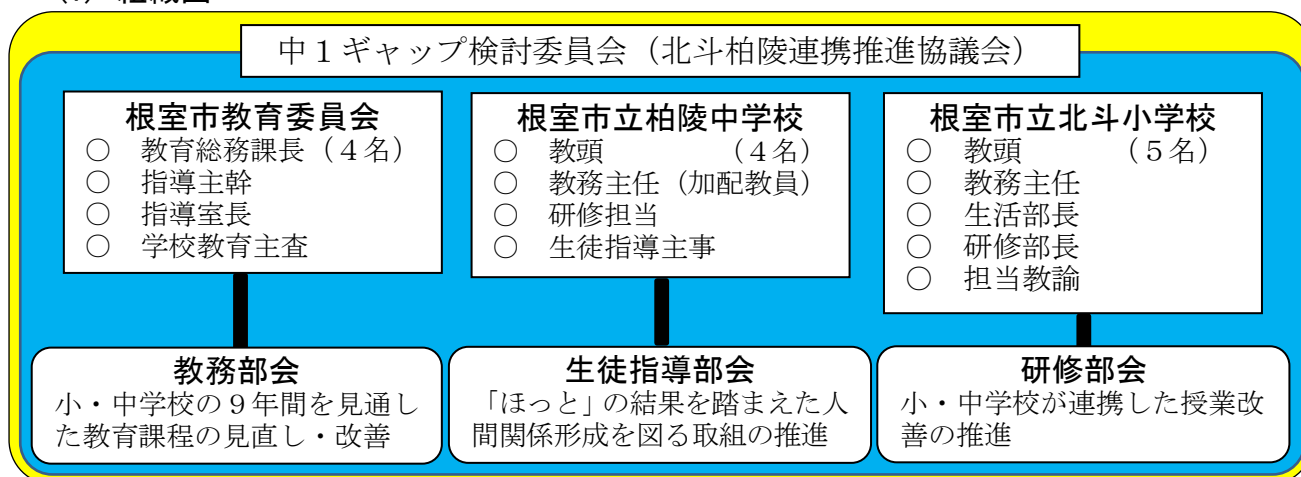
本中学校区は、小学校が1校のため、ほぼ全員が同じ顔ぶれで9年間の学校生活を送ることになる。本中学校区は小学校から中学校に進学した際に不登校となる生徒が増加する傾向にあり、その背景は、小学校時代の人間関係や生活習慣の影響、新たな学習環境や生活環境等の変化に適応できないという状況が考えられ、その要因もますます多様化・複雑化している。新たな不登校生徒を生まないために、小・中学校が「目指す子ども像」を共有し、小学校第6学年と中学校第1学年を円滑に接続するとともに、学習指導・生徒指導の充実を図り、不登校の未然防止の取組を行っている。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- ・小・中学校で設定した「目指す子ども像」である「ともに生きぬく力」を共有し、児童生徒の社会的スキルの育成と自己有用感の向上を図るため、9年間を見通した「中1ギャップ解消プラン」を改善・充実する。
- ・魅力ある学校づくりに向けた取組を推進するとともに、不登校に係る初期段階からの適切な対応に努めることを通して、新規の不登校児童生徒を0人にする。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・子ども支援ツール「ほっと」、「ほっとプラス」、全国学力・学習状況調査、学校評価アンケート、「心と身体のチェック」等の結果分析の実施
- ・不登校児童生徒に対する支援策の計画及び組織的な体制づくり
- ・指導主事を講師とした、小中合同研修会の実施

(3) 加配教員の役割

- ・「中1ギャップ解消プラン」の作成

- ・校区連携校との研修計画と連絡調整
- ・各種調査等の実施と分析

4 中1ギャップ解消プランの実際

時期	根室市立柏陵中学校	根室市立北斗小学校
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新入生に関する引継ぎ <ul style="list-style-type: none"> ・学習、生活、交友関係、家庭環境等の状況及び配慮事項についての情報共有 ・特別な教育的支援を必要とする児童についての情報共有 ・中学校第1学年学級編制における小学校学級担任からの情報提供 	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校の生徒指導方針、学校いじめ防止基本方針、目指す生徒像等、学校経営方針・重点目標の共有 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回中1ギャップ検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・「中1ギャップ解消プラン」の作成 ・「中1ギャップ解消プラン」に基づく取組の共通理解 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1学年を対象に生活アンケートを実施し、生徒の状況を把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者との2者面談の実施
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童会・生徒会による自治的な取組を開始 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者との2者面談の実施 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回「いじめ把握のためのアンケート」及び教育相談の実施 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回小中合同研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事を講師とした「ほっと」「ほっとプラス」に係る研修 ・小学校の授業参観及び「主体的で対話的で深い学び」に係る協議 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2回中1ギャップ検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・「中1ギャップ解消プラン」の重点と取組内容の協議 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ほっと」の実施と分析 ○ 小・中学校における自殺予防教育の取組の推進 ○ 児童会、生徒会活動、交流等についての企画 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ほっとプラス」の実施と分析 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「心と身体のチェック」の実施 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2回小中合同研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事を講師とした「不登校を生まない魅力ある学校づくり」に係る研修 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3回中1ギャップ検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・1学期の取組の交流と2学期の取組についての協議 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「心と身体のチェック」の実施と結果に基づく面談の実施 	

時期	柏陵中学校	北斗小学校
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3回小中合同研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校第6学年、中学校第1学年の生徒指導事案を題材とした生徒指導事例研修 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第4回中1ギャップ検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国学力・学習状況調査の分析結果及び改善方策の共有 ・ 小・中学校における自殺予防教育の取組の推進 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行事相互参観（学習発表会・文化祭） 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2回「いじめ把握のためのアンケート」及び教育相談の実施 ○ 中学校の授業参観及び「主体的で対話的で深い学び」に係る授業改善の協議 ○ 「ほっと」の分析結果及び取組の改善に係る共通理解 	
		○「ほっと」の実施（2回目）と分析
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第4回小中合同研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の言語能力の育成及び情報活用能力の育成に係る協議 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第5回中1ギャップ検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国学力・学習状況調査の分析結果及び改善方策の共有 ・ 「根室市子ども会議」等における児童会、生徒会の交流の成果の活用 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「i-check」の実施 ○ 小学校第6学年特別支援学級在籍児童の中学校授業見学 ○ 生徒会から児童会へ中学校生活の様子を紹介したビデオレターの送付 	
	○「ほっと」の実施（2回目）と分析	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童会、生徒会による自治的な取組の振り返り ○ 「ほっと」の分析結果及び取組の改善に係る共通理解 ○ 中学校体験入学における数学科・英語科模擬授業体験 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校の体験入学の実施 ○ 「心と身体のチェック」の実施 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第5回小中合同研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の望ましい生活習慣・学習習慣定着に向けた取組に係る協議 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第6回中1ギャップ検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業の成果の検証及び「中1ギャップ解消プラン」の見直しと次年度の計画 	
	○ 中学校から小学校へ、英語による部活動紹介のビデオレターの送付	
3月		○進学アンケートの実施
	○小・中学校間での児童生徒の学習状況や生活状況等の引継の実施	

5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

加配教員を中心に、合同研修計画の連絡調整や各種調査等の分析を実施したことにより、「中1ギャップ解消プラン」を計画どおりに滞りなく行うことができた。

○ 効果的な教育課程の改善

推進地域における「目指す子どもの像」を共有し、9年間を見通して「人間関係づくり」と「学力の向上」に向けた取組を重点としたことにより、児童生徒の発達の段階を踏まえた教育活動の計画、学習指導・生徒指導に取り組むことができた。

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

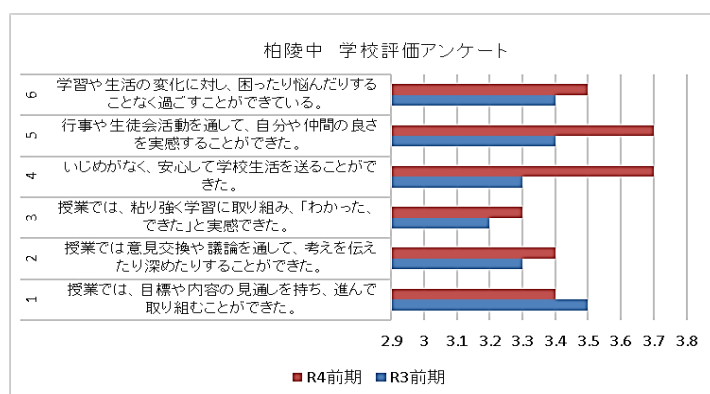
生徒の状況を把握するために「心と身体のチェック」、「ほっと」、「いじめアンケート」から多角的・多面的に生徒の実態を把握した。「心と身体のチェック」では、夏休み前と夏休み後の回答状況の変化から、複数の教員が「面談が必要」と判断した生徒に対して早い段階で教育相談を実施し、悩みを抱える生徒の早期発見、早期対応に努め教育相談の充実を図ることができた。

○ 生徒指導に対する多面的な見方と研修

「中1ギャップ解消プラン」の取組を行うことにより、教職員の担う役割を再確認し、多様化する児童生徒の実態把握や組織的な生徒指導体制、外部機関との連携などについて、加配教員、生徒指導主事、養護教諭が連携し、教職員の研修を進めることができた。

○ 魅力ある学校づくりの推進

全ての教職員が魅力ある学校づくりのために、分かりやすい授業や安心して生活できる学校を目指して取り組んできたことにより、生徒が回答した学校評価で学習や生活に係る項目において、前年度と比較し、多くの項目で上回った。



6 今後の課題と対応

○ 「目指す子ども像」を踏まえた学習指導・生徒指導の充実

小・中学校ともに、児童生徒の「主体性」に重点をおき、発達の段階に応じた教育活動を実践しているものの、学習指導では小・中学校で課題の提示やICTの活用、生徒指導では教師の関わり方の違いがあることから、「目指す子ども像」を踏まえた学習指導・生徒指導の在り方について小・中学校で共通理解を図る必要がある。

○ 魅力ある学校づくりに向けた取組の一層の充実

魅力ある学校づくりに向けた取組を推進してきたものの、新規の不登校生徒がいたことから、学校と家庭との信頼関係の構築、児童生徒理解を深めたアプローチの仕方、児童生徒が選択する場面のある教育活動の実施、関係機関との連携など、加配教員を中心に校内支援委員会を活用し、組織的な取組をより一層充実する必要がある。



【小学校の教諭が中学校へ乗り入れ、中学校の教諭と合同で授業をしている様子】